氏名：　村田　眞弓（MURATA Mayumi）
所属：　人間文化創成科学研究科文化科学系
職名：　准教授
学位：　文学修士（1979 東京大学）
専門分野：　17 世紀フランス文学
URL：　http://www.li.ocha.ac.jp/index.html
E-mail：　murata.mayumi@ocha.ac.jp

◆研究キーワード　／　Keywords

フランス 17 世紀宗教思潮／神秘主義／古典主義
French religious thought in the 17th century ／ mysticism ／ classicism

◆主要業績

総数（1）件

・「フェヌロンとホメロス」（お茶の水女子大学『人文科学研究』第 5 巻 2009 年 3 月　pp.81-93）

◆研究内容　／　Research Pursuits

神学的地平で論じられることの多い、フランス 17 世紀後半の神秘主義思想を、より広い文脈において理解するというテーマのもと、フェヌロンの神秘主義思想を彼の文学理論や審美観と関連させながら論じる試みを行った。『人文科学研究』第 5 巻に発表した論文は、その成果である。

◆教育内容　／　Educational Pursuits

学部：

17 世紀フランスの文学作品の講読を通じて「近代」について考えるきっかけを与えると同時に、古典的フランス語読解のすべを学ぶという基本的方針の下、2008 年度はフェヌロンの『テレマックの冒険』を取り上げた。作品に描かれている「父」像の分析を行い、文学作品のテーマ研究の手法についても学び、「父と子」というテーマでレポートを課して、学生の自主的考察を促した。

大学院：

17 世紀における「オネットム」について、モリエールの作品を主たる手がかりとしながら、さまざまな文献の分析、討論などを通じて理解を深めた。

◆研究計画

「文学」に「思想」を読むというスタンスをもう少し継続する。フェヌロンが携わった静寂主義論争は、神秘主義思想を神学的議論の場に持ち出したときの不幸を余すところなく顕わにしている。宇宙観・世界観としての神秘主義思想は、むしろ「文学」にこそ、その十全な表れを示し得るのではないか。

◆メッセージ

17 世紀フランスに関心を持つ学生はそう多くはない。確かに遠い昔の事柄であり、「今」の関心と重なる部分は少なく、「現在」の問題意識に対する即効性に乏しい。だが本当にそうだろうか。科学も学問も進歩し続けるという考えの欺瞞性が暴かれて久しいが、まだどこかでこの神話を信じたがっている自分に気付くとき、また理路整然と論述できることが絶対の価値であると教えられ、論理的整合性の枠をはめることのできない事象には目を瞑り、見て見ぬ振りをしてしまいたくなった時、そうした考え自体が実は「近代」の申し子であることに改めて思いをはせるべきだと思う。そして現在われわれが直面している問題の多くがそうした「近代」に根ざすものである以上、いったい「近代」とは何なのか、何であったのかを今一度自分自身で考えてみるべきではないだろうか。この「近代」が 17 世紀ヨーロッパのあたりから始まること、デカルトを生んだフランスにその一つの典型があることを考えるなら、17 世紀フランス研究が取り組み甲斐のあるテーマであることは明白だ。